



特定非営利活動法人日本防災士会 富山県支部

富山県防災士会会報

第 11 号

平成 27 年 3 月 1 日
 発行 富山県防災士会
 連絡先 090-5173-7430
 (事務局：黒畑)

市民防災の時代へ

富山市公募提案型協働事業の取組みを終えて

富山市が募集する公募提案型協働事業に、本会として「防災・減災社会づくり～特に防災意識の啓発と家具の転倒防止対策について～」をテーマとする提案をした。

富山県地域防災計画には「県民・市民の防災意識を把握するために防災意識調査を必要に応じて行い、災害対策に活用する」とあるように、平成 25 年、26 年と 2 年間にわたって、民間レベルで市民防災意識調査を実施した。

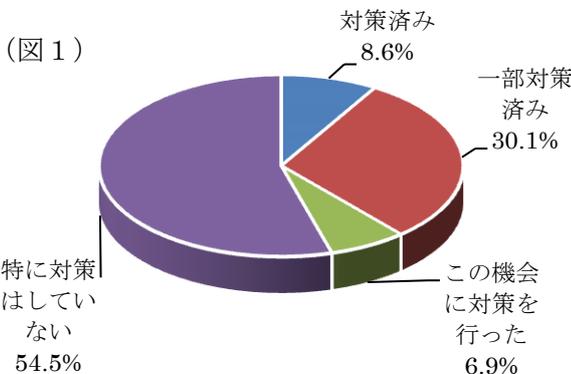
この調査は自主防災会の各家庭を対象に防災意識に関する調査をおこない、耐震診断・耐震化改修、家具の転倒防止等の備えの現況を把握し、この結果をもとにして防災講座を行い、各家庭が行う地震対策や地域の自主防災会が取り組むべき今後の課題を探った。

また、同地区の小学校 5 年生を対象に防災教室と「家族で防災会議」のアンケートを行い、親子一緒に防災について考え、防災意識を高めるとともに地域住民の協力のもと、各家庭が家具の転倒防止対策を進め、安全・安心な住環境をつくり、災害に強いまちづくりを目指すことがこの事業目的である。

今年度は蛭川地区の 4 自主防災会 (1400 世帯) を対象に 8 月と 1 月に調査を実施した。回収率は 1 回目 87.3%、2 回目は 74.1% と 1 回目より 13 ポイント下回った。

★半数以上で家具転倒防止対策はされていない

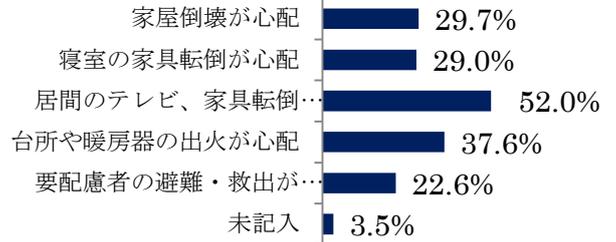
家具の転倒防止対策の実施状況 (図 1) では「対策済み」 「一部対策済み」合わせて 38.7%、「対策はしていない」 54.5%、「この機会に対策を行った」は 6.9%であった。



★寝室や居間のテレビ・家具の転倒が心配 (図 2)

地震が発生したときに心配なこととして、居間のテレビや家具の転倒の心配は 52% と半数を超えている。寝室の家具転倒や家屋の倒壊が心配はそれぞれ約 3 割に近い。台所のガス器具や冬季の暖房器からの出火の心配は 4 割に近い。

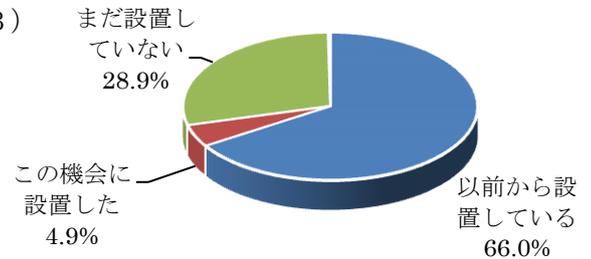
(図 2)



★住宅用火災警報器の設置呼びかけが必要

住宅用火災警報器の設置状況 (図 3) では、「この機会に設置した」 4.9% と「以前から設置している」 66% を合わせても 7 割だった。100% の設置が望まれる。

(図 3)



★家族で防災会議は 8 割で行われていた

蛭川小学校 5 年生を対象に防災教室を行い、家族で防災会議のアンケートを行った結果、8 割で話し合いが持たれ、様々な取り組みや 5 年生としての役割を明確にし、「我が家の防災自慢」が多数挙げられていた。

これらの調査結果から、蛭川地区自主防災会が今後取り組む課題は、住民同士の絆を深めると共に、「寝室やリビングの家具転倒防止対策の重要性」「非常持出品と備蓄品の準備」「家屋の耐震化」「住宅用火災警報器の設置呼びかけ」「指定避難所の周知徹底」「正しい防災知識の普及」を少しずつ継続して行い、地域防災力を高めることである。

国連の国際防災戦略会議による「防災の主流化」が提唱されて久しい。今年に入って国会審議の中で安倍総理大臣は、3 月に仙台で行われる国際防災会議に触れ、「防災の主流化に向けて努力したい」「災害に強い日本を目指す」との力強い答弁もあった。富山県知事は「安全・安心な富山県づくり」を目指しておられ、我々防災士としてそれぞれの地域において今回の意識調査等を通して、災害に強いまちづくりを進め、市民一人ひとりが「備え」、「絆」を大事にする「市民防災の時代」を作っていくことが、防災士の使命であり、夢でもある。

最後に、富山市建設部防災対策課及び富山市教育委員会学校教育課の皆様には様々な観点からアドバイスを頂き、この事業を円滑に進めることができ、感謝申し上げます。

(小杉記)

平成 26 年度富山県防災士会研修会

12月6日(土)、レンタルフォーラム アゴラ(富山市)において富山県防災士会研修会が開催されました。NHK富山放送局キャスターで、防災士でもある気象予報士の木地智美さんを講師にお招きし、「富山県の気象と防災」について講演していただきました。会員30名が受講。

木地さんは、気象予報士として普段心掛けていることは、天気予報をより役立ててもらうために、何が必要であるか。また、気象災害から命や財産を守るために防災情報は正確かつ的確に伝えることを心掛けているそうです。また、平成26年8月の広島県安佐北区・南区の山崩れの教訓から住んでいる場所が「土砂災害警戒区域」か否かを確認することが大事であるとも講演されました。

最後に、富山県の気象現象である12月～1月の鰯のとれる時期に鳴る雷(いわゆるブリ起こし)は、大変珍しい冬の名物であり、富山県の雷の発生件数は全国第4位(32.2日、過去30年間のデータからの平均値)であることに参加者は驚いていました。



出前講座勉強会と会員相互研修会

2月14日(土)、県広域消防防災センターにおいて第3回出前講座勉強会・会員相互研修会が開催されました。会員39名が受講。最初に日本防災士会が制作した『住民が実施する救出活動』をビデオで学習した後、堀内防災士のロープワーク、荻生防災士、笹川防災士による簡易担架の制作法、関防災士による三角巾の活用方法、野田防災士による『災害時応急処置』の説明など、災害時の救助技術について実践を交えた指導がありました。この研修会に参加した会員の皆さんは今後の防災士の地域活動のために熱心に受講されました。



初の開催 富山県女性防災士の集い 11名の女性防災士が参加

2月21日(土)、富山市総合社会福祉センターにおいて富山県女性防災士のつどいが開催されました。この集いは、東日本大震災の教訓を踏まえ、富山県女性防災士のネットワークの構築を図り、女性の視点からの防災に対する取組みについて情報交換するものです。

開催にあたり東北エイド代表の川渕映子先生から「被災地を支援して」の基調講演があり、被災地での行政の手の届かないところをケアしている取組みなどの具体的な取り組みについての貴重なお話をいただきました。



講演する川渕映子先生

講演後には、荻生防災士の進行で、県内各地から計11名の女性防災士と講師の川渕先生を交えての交流会が行われました。

参加された皆さんから、「情報交換ができてよかった」「参加してよかった」「情報が欲しい」「積極的に参加したい」「もっと女性防災士を増やして欲しい」など積極的な感想が寄せられました。



《編集後記》

我々富山県防災士会は、日頃の活動の継続もあって県内では一定の評価を頂いているところです。これに甘んずることなく自己研鑽に励みましょう。



『日本語に不慣れな方への防災マニュアル』 射水市民国際交流協会が作成

射水市民国際交流協会では日本語が不慣れの方のために、日本語、英語、中国語、ポルトガル語の並列標記した地震災害のための簡単な防災マニュアルを作成されました。興味がある方は吉澤防災士までお問合せください。

外国人の登録状況(参考)

富山県内の外国人登録は、12,908人(平成26年1月現在)で県民人口に占める割合は1.18%です。主な国籍は中国41.5%、ブラジル15.7%、フィリピン12.8%であり、この3国で70%を占めます。

また市町村別では、富山市(38%)、高岡市(21%)、射水市(13%)に集中し、富山市は中国、高岡市はブラジル、射水市はブラジルと中国の国籍が多いことが特徴です。

～じしんから からだを まもりましょう～
Stay Safe During Earthquakes
当地震来临时,学会保护自己吧
Proteja-se do terremoto

じしんが おきたら
(During the Earthquake 当地震来临时学会保护自己吧 Quando ocorrer um terremoto)

- いちばんに じぶん と かぞくのからだを まもりましょう。..
First, make sure you and your family are safe..
如果发生地震的话首先要确保自己和家人的安全..
Em primeiro lugar, garantir a sua segurança e de sua família..
- つくえ・テーブルのしたに かくれましょう。..
Take cover under a table or desk..
把身体躲到桌子下面..
Proteja-se debaixo de mesas ou escrivaninhas..
- ゆれているあいだは うごかないで、けがを しないようにしましょう。..
To keep from being injured, don't move around recklessly during the earthquake..
在摇晃的期间不要胡乱乱动,要避免受伤..
Não se mova durante o tremor para evitar ferimentos..

